

分野別部会における論点

- ・ 安心部会 第 1 回 … P 1
- ・ 活力部会 第 1 回 … P 5
- ・ 発展部会 第 1 回 … P 8

「安心・活力・発展プラン2015」中間見直しにおける論点 ＜安心部会①＞

論点① 出産・子育て

＜現状・課題への意見等＞

- ・子育ての負担が女性に偏っている
- ・シングルマザーでも安心して子育てができる支援、社会全体で育てるという状況・仕組みが必要
- ・大分県は若い女性が少ない
- ・女性が暮らしやすい環境の整備、UIJターン対策の議論が必要



- 地域や行政など社会全体で子育てをする仕組みづくりが必要ではないか
- 女性の生きづらさを解消する取組を進めるとともに、女性にとって魅力的な大分県となるための新たな取組が必要ではないか

＜総合部会での意見＞

- ◆ 女性にとって時間が作れるというのは大事
- ◆ 企業も制度的にバックアップすべきであり、行政はその環境整備を
- ◆ 他県の女性など、外からの声を聞くことも大事
- ◆ 福岡に感じている魅力を大分に作ることもヒントになる

「安心・活力・発展プラン2015」中間見直しにおける論点 ＜安心部会②＞

論点② 地域共生社会

＜現状・課題への意見等＞

- NPOの活動の種類や頻度など、整理し見える化し、マッチングなどの仕組みを取り入れるべき
- 地域内での日頃のコミュニケーションが重要であり、そういった取組への支援が必要
- 親である責任として、地域を支えることも必要
- 少子高齢化が全国より進む大分県は、国の示す施策等より進んだ取組が必要
- 山間地では特に、高齢者の移動手段が課題



- 社会福祉協議会やNPOなど多様な主体、世代が繋がり支えあう地域をどう実現するか
- ネットワーク・コミュニティの取組は進んでいるが、人口減少を前提とした、さらに踏み込んだ施策が必要ではないか

＜総合部会での意見＞

- ◆ 地域の実情に応じた新しい、地域共生型公共交通ネットワークを作れないか（福祉施設の送迎と交通事業者の協力など）
- ◆ 大分を自動走行車の特区にするなど、先駆けた取組
- ◆ 旅客と貨物などの問題にも取組を
- ◆ 地域特性を踏まえた差別化した取組が必要

「安心・活力・発展プラン2015」中間見直しにおける論点 ＜安心部会③＞

論点③ 県土強靱化

＜現状・課題への意見等＞

- ・地域の実情等に合わせたオーダーメイドの防災対策が必要
- ・防災士育成の内容(手法)を、実際に住民が活かせるものに見直すべき
- ・防災は総合政策、特に要支援者への対応は福祉、土木など横断的な取組が必要
- ・災害リスクの高まりなど、経常的に、平時からモニタリングできるような仕組みが必要
- ・ハザードマップ作成後の避難に向けたシステム等も必要
- ・本当に必要なインフラかどうかという視点も必要



➤ ソフト対策と連動したハード対策など、災害に強いまちづくりをどう進めるか

＜総合部会での意見＞

- ◆ 計画だけでなく、どう避難するか、そこからが非常に重要
- ◆ 農村・山林地域等の防災対策の必要性

「安心・活力・発展プラン2015」中間見直しにおける論点 ＜安心部会④＞

論点④ 人材育成

＜現状・課題への意見等＞

- ・子ども達への教育、先端技術の世界的な動きなどを学ぶ機会の充実が必要
- ・防災、教育、福祉などを切り口として先端技術に係る教育を進めることは可能
- ・教育の役割と責任は極めて大きい
- ・優秀な人材が県外に流出しないよう、県内に残る学生への支援を検討して欲しい
- ・福祉人材が不足、養成する専門校等への支援も検討して欲しい



- 産業界や地域のニーズにあった人材の育成ができる教育が必要ではないか
- 県内の地域や仕事の理解を深め、郷土愛を持った若者をどう育てるか

＜総合部会での意見＞

- ◆ 地域と教員を繋ぐコーディネーターの必要性
- ◆ 特色のある学科を持つ大学を作っていく必要性
- ◆ ふるさと教育を義務教育の中に取り入れるべき

「安心・活力・発展プラン2015」中間見直しにおける論点 ＜活力部会①＞

論点① 人材確保

＜現状・課題への意見等＞

- ・儲からないと人が残らない
- ・夢やプライドを持って働けるかということも重要
- ・学生に県内企業の魅力をもっと知ってもらうことが必要



- 県内産業をいかに儲かる産業へ転換させるか
- 大分らしい、県内企業の魅力ある仕事づくりをどう創出するか

＜総合部会での意見＞

- ◆ 女性の社会的制約を軽減する対策が必要ではないか
- ◆ 新規就農者や参入企業の生活環境面等でのフォローアップが必要

「安心・活力・発展プラン2015」中間見直しにおける論点 ＜活力部会②＞

論点② 女性の活躍

＜現状・課題への意見等＞

- ・子どもを産むことと、女性が活躍することが反比例
- ・「大分県らしい」働き方・子育て、人を育てるという視点が必要



- 子育てしやすい仕事・職場づくりをどう実現するか
- 地域や行政など社会全体で子育てをする仕組みづくりが必要ではないか

＜総合部会での意見＞

- ◆ 女性にとって時間が作れるというのは大事
- ◆ 企業も制度的にバックアップすべきであり、行政はその環境整備を
- ◆ 女性の社会的制約を軽減する対策が必要ではないか

「安心・活力・発展プラン2015」中間見直しにおける論点 ＜活力部会③＞

論点③ 産業振興

＜現状・課題への意見等＞

- ・中小企業は計画・経営戦略を立てる部分が弱い
- ・起業を進め、情報環境を整備し、人材を大分に集めるという視点が必要
- ・やる気のある若者をサポートする環境が必要
- ・5Gの到来を想定した準備や、先端技術を活用したスポーツ公園の利用を進めるべき
- ・「大分はIT教育先進県」といえる教育現場に
- ・宿泊業等の働き方改革、賃金体系見直し等が必要
- ・ツイッター等ツールを使いこなしていない。温泉の打ち出し方含め戦略的な広報が必要

- 
- 人材不足に対応した働き方改革、賃金体系見直しなど、中小企業の経営改革をどう進めるか
 - 若者の挑戦をサポートする環境づくりをどう進めるか
 - 教育含め、先端技術への挑戦をどう県の競争力強化につなげていくか
 - デジタルマーケティングなど新しい広報にどう取り組んでいくか

＜総合部会での意見＞

- ◆ 今後の中小企業対策として、チャレンジ、核となる人材の確保、個性が重要
- ◆ 多様な人材が集まるハブのようなものをつくり、新しいものを生むこと
- ◆ 法人税の特区のようなもので起業を促す
- ◆ プログラミング経験を小中学校教育で充実すべき
- ◆ 戦略的なITの活用をしていくこと(ステップバイステップ)

「安心・活力・発展プラン2015」中間見直しにおける論点 ＜発展部会①＞

論点① 人材育成(キャリア教育)

＜現状・課題への意見等＞

- ・高校でのキャリア教育に加え、小中学校におけるキャリア教育も重要
- ・キャリア教育の充実に向けたコーディネーターの確保と、その人たちの育成が必要
- ・教員の業務量は多く、体験学習などは困難、小中学校に教員を多く投入すべき
- ・地元大学の力を、小中学校の課題等の解決に活用して欲しい
- ・高校は、地元市町村と将来の展望など、もっと有意義な意見交換をすべき
- ・情報教育に特化した高校など思い切った施策により、「教育は大分」と言われる何かが必要



- 小中学校段階でのキャリア教育を充実させる必要があるのではないか
- 高校では、地元との繋がりを強め、地元のニーズに応えられる人材の育成も進めるべきではないか

＜総合部会での意見＞

- ◆ プログラミング経験を小中学校教育で充実すべき
- ◆ 高校の中でも専門性のある教育をしていくべき
(サービスを生む・作れるような人材を教育する商業高校の学科など)
- ◆ 地域と教員を繋ぐコーディネーターの必要性

「安心・活力・発展プラン2015」中間見直しにおける論点 ＜発展部会②＞

論点② 人材確保(県内就職)

＜現状・課題への意見等＞

- ・県内企業は都市部の給与・福利厚生に劣っている
- ・県内企業の魅力・アピールを教師や保護者に訴える機会が必要
- ・地元大学の魅力や学べることを知らないまま県外に流出しないよう、高校に知ってもらおう取組が必要



➤ 地元の大学や企業と、小中高校とを繋ぐ方策が必要ではないか

＜総合部会での意見＞

- ◆ 特色のある学科を持つ大学を作っていく必要性
- ◆ ふるさと教育を義務教育の中に取り入れるべき
- ◆ 連合学部などの可能性を長期的に考える必要性(農学部等)

「安心・活力・発展プラン2015」中間見直しにおける論点 ＜発展部会③＞

論点③ 芸術文化・スポーツ

＜現状・課題への意見等＞

- ・芸術文化に対する感性を育てることは、美しい大分をつくっていくことに繋がる
- ・国民文化祭開催後、若い人に見てもらい、体験していくことにより成功をさらに伸ばしていく必要がある



➤ 芸術の持つ、多様なものの見方や感じ方を、特に若者が身につけるためにさらに何をすべきか

＜総合部会での意見＞

- ◆ 芸術文化が女性達にとって、生きづらさの解消や大分らしさとの出会いであったりする可能性

「安心・活力・発展プラン2015」中間見直しにおける論点 ＜発展部会④＞

論点④ 公共交通・交通ネットワーク

＜現状・課題への意見等＞

- ・地方ではバスもなく、車がなければどうにもならない
- ・MaaS(モビリティ・アズ・ア・サービス)が、大分県の実情に合うか合わないか、県民が使える技術かどうかも含め、公共交通のあり方を検討すべき
- ・田舎と市中心部等の行き来が30分のできるような交通ネットワークの整備が必要
- ・移動自体が楽しい基盤整備、利便性＋快適性を重んじた交通ネットワークも重要



➤ 地域内、特に近・中距離の移動手段をどのように確保するか

＜総合部会での意見＞

- ◆ 地域の実情に応じた新しい、地域共生型公共交通ネットワークを作れないか（福祉施設の送迎と交通事業者の協力など）
- ◆ 大分を自動走行車の特区にするなど、先駆けた取組
- ◆ 旅客と貨物などの問題にも取組を
- ◆ 地域特性を踏まえた差別化した取組が必要